

「今後の県立高校に関する意見交換会」（第1回）の概要

1 実施状況

ブロック名	ブロック内市町村名	実施日時	会場	出席者数		
				一般参加者	県議会議員	報道関係
盛岡	盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町	平成27年 6月8日(月) 18:00～19:30	盛岡商業高校	25	—	2
岩手中部	花巻市、北上市、西和賀町	5月22日(金) 18:00～19:30	花巻市文化会館	52	2	3
胆江	奥州市、金ケ崎町	5月20日(水) 14:00～15:30	奥州市役所江刺総合支所	14	2	3
両磐	一関市、平泉町	6月17日(水) 14:00～15:30	一関地区合同庁舎	17	1	2
気仙	大船渡市、陸前高田市住田町	5月29日(金) 14:00～15:30	大船渡地区合同庁舎	14	—	—
釜石・遠野	遠野市、釜石市大槌町	6月16日(火) 18:00～19:30	大槌町中央公民館	15	1	1
宮古	宮古市、山田町岩泉町、田野畑村	6月23日(火) 18:00～19:30	宮古水産高校	46	1	1
久慈	久慈市、普代村野田村、洋野町	5月28日(木) 18:00～19:30	洋野町民文化会館	23	1	—
二戸	二戸市、軽米町九戸村、一戸町	6月22日(月) 18:00～19:30	福岡工業高校	26	2	1
計				232	10	13
				255		

2 会議の内容

- (1) 「今後の高等学校教育の基本的方向」の概要説明及び地域の高校に関する状況等の説明
- (2) 地域の高校配置等に関する意見交換

3 意見等のまとめ

- ・ 地域にとって高校は重要な存在であり、高校まで無くなると地域がさらに廃れてしまうため、小規模校であっても存続が必要である。
 - ・ 再編を行う場合であっても、生徒の選択肢がブロック内である程度確保される必要がある。
 - ・ 高校再編を考える際は、地方創生に取り組んでいる現状も踏まえ、地域振興と併せて検討していくことが重要である。
 - ・ 1学級定員について、地域の実情を踏まえ、沿岸、県北、中山間地域では、少人数学級の導入が必要である。
 - ・ 望ましい学校規模も、全県一律で4～6学級ではなく、地域の実態にあった学校規模の基準が必要ではないか。
- その他、魅力ある学校づくりの推進、学区の見直し、地域に貢献する人材の育成、1学級定員の見直し等、様々な意見があった。

今後の県立高校に関する意見交換会（第1回）の主な意見提言

ブロック	主な意見・提言等
盛岡	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し要点をわかりやすく示し、参加者の意見を出しやすいようにしてはどうか。 ・高校再編に併せ、不登校や中途退学者の生徒を減らす対策が必要ではないか。 ・私立高校のない地域や公共交通機関等の通学手段のない地域では、教育の機会の均等の面からも慎重な検討が必要と考える。 ・私立高校は生き残りをかけて様々な特色ある取り組みをしている。県立高校はそのような取り組みが少ないと感じている。 ・具体的な再編計画を出さないと、話が進まないのではないかと。再編にあたっては、盛岡市にある高校を統合して周辺にある小規模校を残していくような工夫が必要である。 ・小規模校をかかえる自治体では様々な施策を地元の高校に対して行っている。県でもこれを超えるような施策を示さないと小規模校に配慮すると言っても説得力がないのではないかと。
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> ・高校をなくすことにより、さらに地域の人口を減らすようなことをしてはいけない。むしろ、それを食い止める対応を練ってほしい。 ・教員の配置についても、国の財政措置が少なくなることを言っているが、その中で岩手県だからこうしたいというものが見えてこない。もっと積極的、具体的な内容を示してほしい。 ・都市部に一極集中させるのではなく、様々な選択肢が地域にあることが大切である。西和賀高校には町外からも入学しているが、生徒が地域になじもうとしている。是非、地域に子どもたちを残してほしい。 ・全国には特長ある学校を作り、県外からも生徒が入学し地域を盛り上げている例もある。高校再編を考える際には、地域振興と併せて検討することが大切である。再編の結果地域の過疎化に拍車がかかることのないようにすることが大事ではないか。 ・かつては隣接する町から大迫高校への入学者もいたが、今は少なくなっている。学区外の基準の見直しが必要ではないか。 ・産業に特化した学科を併設する方法もあるのではないかと。
胆江	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の統廃合の計画が示されてからでは意見を出しにくい。学級定員は35人とか、6学級校を5学級にする等、もっと具体的な提案を出してもらわないと意見を出しにくい。 ・再編で地域に高校が無くなった場合、教育の機会の保障から、通学手段の確保に対し県が責任を持って保障してほしい。 ・実際に関わる小・中・幼稚園の保護者の方々がより多く参加できるお知らせの仕方と時間帯の設定をお願いしたい。 ・中学校も小規模化しつつあり、高校単独ではなく小中学校を含めた通学手段の確保を今後考えて行かなければならないのではないかと。 ・少子化の影響で高校再編を行うということであるが、学力だけでなく、生徒の個性を發揮する場が高校だと思うので、単に小規模校を規模の大きい高校へ統合させることの無いようにしてほしい。 ・少子化で仕方がないと思うが、仕方がない再編ではなく、10、20年後のこの地区のモデルを描いて夢のある高校教育を目指す再編計画としてほしい。
両磐	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は見やすいが、高校再編計画についてもっと具体的な内容にしてほしい。 ・旧一関市内の高校の定員を大幅に削減することによって花泉高校を選択する生徒を増加させる方法もあるのではないかと。 ・学校存続のために、この学校はこのような特色を出した方がよいとか、こんなことをしなければならぬというような具体策や県の指針を出してほしい。 ・旧一関市内には高校が多すぎるのではないかと。花泉の住民は花泉高校へ進むような中高一貫校は考えてみてはどうか。 ・両磐ブロックには一関高専や、私立高校が2校あることなど、他の地域とは実情が異なるため、地域性を考慮した再編計画をお願いしたい。 ・今の基準で教員配置が不可能であれば、基準を変更することできないのか。 ・現状を考えると学区制は必要ないのではないかと。なぜ、普通科だけ学区外受入れを10%にしぼらなければならないのか、全県一学区を検討してほしい。

両 磐	<ul style="list-style-type: none"> ・転勤の可能性のある職業であるため、9ブロックのどの地域にいても進学や就職、それぞれの夢を叶えられるような学校をそれぞれのブロックに配置してほしい。
気 仙	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい学校規模を4～6学級としているが、地域の実態にあった学校規模の基準は必要ではないか。 ・生徒の個性を伸ばす意味でも1学級定員を30人や35人にしてほしい。少人数であるほど手厚い指導ができる。 ・住田高校は、保育園から高校まで継続的な教育活動に力を入れている、このような取り組みを後押ししていただきたい。 ・東日本大震災津波では、避難所におけるボランティア活動等で高校生の活躍があり、被災地で大切な役割を果たしていた。今後のために復興教育や防災教育を高校教育の中に取り入れてはどうか。 ・被災地は復興途中であり、仮設で生活している世帯も多い。保護者の経済的な負担を減らす意味で高校でも給食を提供するようなことは考えられないか。
釜石・遠野	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を支える力となる小規模校の存続をお願いしたい。 ・これまでも統合により釜石工業高校等、単独の専門学科高校がなくなっている。これ以上統合が進むのはつらい。釜石・遠野ブロックについては、現在の配置のままでお願いしたい。 ・説明では小規模校を統合廃止するのではなく、小規模校への配慮、1学級定員の見直しを検討するというので、存続させる方向と受け止めた。是非、そうしていただきたい。 ・釜石高校は進学校として、更に上を目指し頑張っている。専門学科高校とは、授業時間や年間を通しての活動、部活動等、様々な点で違いがあり統合には課題が多いのではないかと。釜石商工高校は郷土芸能等の特色ある活動を行っている。地域に中学生が選択できる学校があった方がいいのではないかと。
宮 古	<ul style="list-style-type: none"> ・宮古地区は内陸部の高校に比較して高校の数が少ない。大規模校になじめない生徒もいるので、不登校等の生徒にきめ細かく対応できる小規模校の意義はある。 ・子ども達が充実した高校生活を送るにはある程度の学校規模は必要である。 ・宮古ブロックは平成31年には160人減ることが見込まれているが、単に数字に当てはめて再編を進めていくことに危機感を持っている。宮古ブロックは広範囲であり、そういった地域の交通事情を十分考慮し再編計画を進めてほしい。 ・宮古ブロックには宮古水産高校の専攻科しかない。経済的な理由で大学や短大に進学できない生徒もいるので、別な専門分野を深く学びたいという生徒のために専攻科の設置は考えられないか。
久 慈	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級の実現に向けた国への働きかけ等をしながら、地域の宝である学校をできるだけ存続させ、地域に貢献する人財を育てる視点で再編の検討をお願いしたい。 ・前計画策定の時にも地域懇談会があり参加した。その時は通り一遍の説明であったが、今回は進め方が丁寧で、地域の考えを聞く姿勢が見られる。 ・高校にはそれぞれの規模に応じた良さがある。大規模校の視点で見ると、小規模な大野高校の良さが見えなくなる。様々な価値観で学校の在り方を探っていけばいいのではないかと。 ・東日本大震災後、子ども達の就職に対する考え方が変わってきたのではないかと。大震災後、地元で貢献したいという子ども達の声をよく聞く。地域と高校との関わりは深いということを理解していただきたい。
二 戸	<ul style="list-style-type: none"> ・1学級定員について、30人にすれば、入学生の少ない伊保内高校や軽米高校のような小規模校であっても2クラスに編制できる。30人学級を是非導入し、小規模校を維持していただきたい。 ・都市部の大規模校では、理想的な学校経営ができるが、人口減少が進む市町村にある高校については、同じ物差しではかることは難しく、別の方法を考える必要がある。 ・仮に地元の高校がなくなった場合、家庭への負担が大きくなり通学させる方法として何かがあるか検討していただきたい。 ・教員1人あたりの担当科目数が、普通高校に比べると総合学科は多いということだが、負担軽減を含め、総合学科の教育に県教委として力を入れていただきたい。 ・高校再編について、生徒を生き生きと育てる視点と、地域振興、地域への想いが一緒になって議論されているため、分かりにくい。